

# 式の御神楽

※『遠山霜月祭 〈南信濃①和田・八重河内・南和田編〉』（飯田市美術博物館・遠山常民大学 2010）より引用、加工

## 式の御神楽

(モト)

(ウラ)

- エン 御竹にはしょうじのおしめ アンヤーハー いくえ引く トンヤ  
サア いくへ引く 七重も八重も アンヤーハー 重ね引く トンヤ
- エン しめおしめしょうじのおしめ アンヤーハー 宮のしめ トンヤ  
サア 宮のしめ 七重も八重も アンヤーハー 祝い引く トンヤ
- エン 七滝や八滝の水を アンヤーハー 汲み上げて トンヤ  
サア 汲み上げて 神清まると アンヤーハー 清めする トンヤ
- エン 七浜や八浜の塩を アンヤーハー 汲み上げて トンヤ  
サア 汲み上げて 神清まれと アンヤーハー 清めする トンヤ
- エン 津の国の 亀井の水を アンヤーハー 汲み上げて トンヤ  
サア 汲み上げて 神清まれと アンヤーハー 清めする トンヤ
- エン 清めする 惣谷川の アンヤーハー 滝の水 トンヤ  
サア 滝の水 落ちて清まる アンヤーハー 七滝を トンヤ
- エン 式なれば 式程申す アンヤーハー 式のじょう トンヤ  
サア 式のじょや 黄金の御戸を アンヤーハー 押開き トンヤ
- エン 白金や黄金の御戸を アンヤーハー 押開き トンヤ  
サア 押開き 神あらわれて アンヤーハー げぎよをほめす トンヤ
- エン 伊勢の国 天の岩戸を アンヤーハー 押開き トンヤ  
サア 押開き 神あらわれて アンヤーハー げぎよをほめす トンヤ
- エン 伊勢の国 要田ヶ原に アンヤーハー はむ鹿が トンヤ  
サア はむ鹿が 角を並べて アンヤーハー 御座れます トンヤ
- エン 東山 小松かきわけ アンヤーハー 出る時 トンヤ  
サア 出る時 西へはやらじ アンヤーハー ゆだえます トンヤ
- エン 伊豆みこそ 七つの島の アンヤーハー その中で トンヤ  
サア その中で 見えたる島は アンヤーハー 三島なる トンヤ
- エン 三島なる 八つある澳の アンヤーハー 八つながら トンヤ  
サア 八つながら 羽を並べて アンヤーハー 御座れます トンヤ
- エン 熊野山 きりめが奥の アンヤーハー なぎの葉を トンヤ  
サア なぎの葉を 重ねてさいて アンヤーハー こたへます トンヤ
- エン 熊野へは 冬こそ参れ アンヤーハー 参りては トンヤ  
サア 参りては 吉田が今の アンヤーハー おものあそび トンヤ
- エン 山の神 育ちは何所よ アンヤーハー 奥山の トンヤ  
サア 奥山の そ山の奥の アンヤーハー 榊葉の本で トンヤ
- エン 諏訪の海 皆そこ照す アンヤーハー 小玉石 トンヤ  
サア 小玉石 手には取れども アンヤーハー 袖はぬらさじ トンヤ
- エン 所では 所の神が アンヤーハー 御はしませ トンヤ  
サア 御はしませ 吾にかたさじ アンヤーハー きやつのひくりの神 トンヤ
- エン <東方 ※>の神々の まします道を アンヤーハー 清むには トンヤ  
サア 清むには 八浦の塩を アンヤーハー くみ上げて トンヤ  
※<南方、西方、北方、中方下方十方十二ヶ方>で繰り返す
- エン <東方 ※>の神々の お渡る道を アンヤーハー あやはりて トンヤ  
サア あやはりて 錦をしきて アンヤーハー むかえます トンヤ
- エン <東方 ※>の神々の 今ぞまします アンヤーハー 大虎を トンヤ  
サア 大虎を かすみの内に アンヤーハー おはします トンヤ
- エン <東方 ※>の神々の 今ぞまします アンヤーハー 長浜を トンヤ  
サア 長浜を 葦毛の駒に アンヤーハー 尾をはませ トンヤ

# 御神楽

(モト)

(ウラ)

## 四季の神楽 (仮称)

エン 冬来れば たれかやしようず アンヤーハー 北国の トンヤ  
サア 北国のしぐれのういをー アンヤーハー 山しめす トンヤ  
エン 峯は雪 麓はしぐれー アンヤーハー 里は雨 トンヤ  
サア 里は雨 富元は志ぐれー アンヤーハー 峰は雪 トンヤ  
(春・夏・秋の神楽は省略)

## 湯殿ほめ (仮称)

エン 此のかざり木は 何所の木なりー アンヤーハー 山こえて トンヤ  
サア 山こえて 遠山こえてー アンヤーハー 七山こえて トンヤ  
エン 此のそさわらは 何所のわらよー アンヤーハー 里こえて トンヤ  
サア 里こえて 遠里こえてー アンヤーハー 七里こえて トンヤ  
エン 此の浜土は 何所の土よー アンヤーハー 海こえて トンヤ  
サア 山こえて 遠山こえてー アンヤーハー 七山こえて トンヤ  
エン 此の釜柱 何所の木なりー アンヤーハー 山こえて トンヤ  
サア 山こえて 遠山こえてー アンヤーハー 七山こえて トンヤ  
エン 此の白桶は 何所の木なりー アンヤーハー 山こえて トンヤ  
サア 山こえて 遠山こえてー アンヤーハー 七山こえて トンヤ  
エン 此の浜水は 何所の水よー アンヤーハー 海こえて トンヤ  
サア 海こえて 遠海こえてー アンヤーハー 七海こえて トンヤ  
エン 此の釜は 何所の金よー アンヤーハー 国こえて トンヤ  
サア 国こえて 遠国こえてー アンヤーハー 七国こえて トンヤ  
エン 此の湯ぶた 何所の木なりー アンヤーハー 山こえて トンヤ  
サア 山こえて 遠山こえてー アンヤーハー 七山こえて トンヤ  
エン 此の湯たぶき 何所の箆よー アンヤーハー 山こえて トンヤ  
サア 山こえて 遠山こえてー アンヤーハー 七山こえて トンヤ  
エン 此の柄杓 何所の木なりー アンヤーハー 山こえて トンヤ  
サア 山こえて 遠山こえてー アンヤーハー 七山こえて トンヤ  
エン 此の焚木 何所の木なりー アンヤーハー 山こえて トンヤ  
サア 山こえて 遠山こえてー アンヤーハー 七山こえて トンヤ  
エン 此の角石は 何所の石よー アンヤーハー 岩こえて トンヤ  
サア 岩こえて 遠岩こえてー アンヤーハー 七岩こえて トンヤ  
エン 此のほくち 何所のほくちー アンヤーハー 里こえて トンヤ  
サア 里こえて 遠里こえてー アンヤーハー 七里こえて トンヤ  
エン 此の火打 何所の金よー アンヤーハー 国こえて トンヤ  
サア 国こえて 遠国こえてー アンヤーハー 七国こえて トンヤ  
エン 此の付木板 何所の木なりー アンヤーハー 山こえて トンヤ  
サア 山こえて 遠山こえてー アンヤーハー 七山こえて トンヤ  
エン 此の火を切りて 水をしようずるー アンヤーハー たれかより トンヤ  
サア たれかより 要田が原のー アンヤーハー ねぎが生ずる トンヤ  
エン 湯之父の そだちは何所よー アンヤーハー 尾張なる トンヤ  
サア 尾張なる 渥田が森のー アンヤーハー ねぎが生ずる トンヤ  
エン 湯之母の そだちは何所よー アンヤーハー 信濃なる トンヤ  
サア 信濃なる 八幡の森のー アンヤーハー ねぎが生ずる トンヤ  
エン 庭ならし たれかや生ず アンヤーハー 伊勢の国 トンヤ  
サア 伊勢の国 要田が原のー アンヤーハー ねぎが生ずる トンヤ

(願神楽の2種省略)